

「遺伝子情報を用いた膵管内乳頭粘液性腫瘍の診断の確立」へご協力をお願い

ー平成 25 年 8 月 31 日までに当院において膵管内乳頭粘液性腫瘍治療を受けられた方へー

研究機関名 岡山大学病院
責任研究者 岡山大学病院 消化管外科 助教 永坂岳司
分担研究者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻腫瘍制御学講座
消化器外科学分野 教授 藤原俊義
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻腫瘍制御学講座
消化器外科学分野 大学院生(医師) 吉田一博

1. 研究の意義と目的等

膵管内乳頭粘液性腫瘍は膵臓に発生する粘液産生性の嚢胞性腫瘍で、その一部は上皮内癌や浸潤癌に進展する前癌病変の一つとされています。近年の画像診断の向上により、発見されることが多くなってきましたが、画像上、良悪性を区別することは未だ困難であるのが現状です。ところで、癌は様々な遺伝子異常により発生すると考えられており、膵管内乳頭粘液性腫瘍においても同様に遺伝子異常が関与している可能性があります。そこで、当科では患者さまの同意を得た上で、膵管内乳頭粘液性腫瘍切除検体の遺伝子情報を調べ、特に癌に認められる特徴的な遺伝子異常の同定を行い、膵管内乳頭粘液性腫瘍の悪性診断の向上を達成したいと考えております。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

岡山大学病院の消化管外科・肝胆膵外科で診療を行っている膵管内乳頭粘液性腫瘍患者さま 65 人

2) 研究期間：

平成 25 年 10 月倫理委員会承認後から平成 27 年 10 月 31 日

3) 研究方法：

平成 25 年 8 月 31 日までの間に当院において膵管内乳頭粘液性腫瘍と診断され治療を受けられた患者さまを対象とし、既に保存されている切除標本を基に 4 遺伝子 8 領域の遺伝子プロモーター領域の DNA メチル化解析を行い、悪性度によって異なる遺伝子異常について検討します。

また、研究の為に新たに採血や組織を採取することはありません。

4) 調査票等：

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの個人情報には削除し匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 年齢、性別、家族歴、既往歴
- ・ 診察所見、腫瘍の状態、治療内容、血液や放射線、内視鏡などの検査データ
- ・ 癌の遺伝子情報 など

5) 情報の保護：

調査情報は岡山大学消化器外科学内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存します（研究期間終了後 5 年間保存させていただきます）。

6) 資料の保存：

研究終了後、使用しました資料は岡山大学消化器外科学内で保存いたします（研究期間終了後 5 年間保存させていただきます）。

調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない

場合には研究対象としないので、平成 27 年 10 月 31 日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。なお、患者さまご自身がお亡くなりである等、同意を確認できない状況の場合、ご家族さまに代諾いただくことといたします。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 消化管外科

職名：助教 氏名：永坂岳司

電話：086-235-7257 ファックス：086-221-8775